

conneko—コネコー

櫻井優妃乃（環境人間学部4年）

キーワード：子ども，地域，ボランティア

1. 団体概要

conneko—コネコーは、地域の子どもの対象とした支援活動を行うボランティア団体と学生ボランティアをつなぐことで、支援者不足を解消するとともに、メンバーも活動に参加することで、経験の場を拡げることが活動目的としている団体である。現在は4年生10名、3年生5名、2年生7名、1年生17名の計39名が所属している。



写真2：10/1 きっずきっちゃんそね
（出所）所属学生撮影

2. 2023年度の活動について

現在 conneko—コネコーは、高砂市で毎月1回程度、地域の子ども食堂として運営されている“きっずきっちゃんそね”と“おかげ村こども食堂”を主な活動拠点としている。この2つの子ども食堂では、子ども食堂の準備・片付け、調理の手伝い、子どもの遊び相手を中心に行っている。メンバーは、子ども食堂に来る多様な子どもひとりひとりに合った対応の難しさを感じながらも、子どもとのかかわりを通して、私たち学生ボランティアの必要性を感じることができている。また、子ども食堂のスタッフさんは、余った食材を持ち帰らせてくれるといったように私たち学生ボランティアをととても温かく迎えてくれているため、ボランティア活動を通して多様な世代の方とコミュニケーションを取る力を身に着けるとともに、私たち学生ボランティアにとっても「居心地が良い」と感じられる場にもなっている。

加えて、地域の子どもにかかわるボランティア活動のニーズに応じて、活動を展開している。今年度は、8月と10月に大阪府豊中市の庄内コラボセンターで行われた、子ども食堂主催のイベントにボランティアとして参加し、8月はお菓子釣り、10月はたこやきビンゴのお手伝いを行った。どちらも景品がなくなるほどの大盛況のイベントで、参加したメンバーも大きなやりがいを感じることができた。

今後もさらに活動拠点を拡げ、学生が多様な場で多様な経験を行えるようにしていきたい。



写真1：5/20 おかげ村こども食堂
（出所）所属学生撮影



写真3：8/11 こども縁日
（出所）所属学生撮影



写真 4：10/22 こども縁日
(出所) 所属学生撮影

3. 活動を通して学んだこと

今年度の活動を通して学んだことは、学生ボランティアの必要性だ。

定期的に活動に参加しているメンバーによると、活動先のスタッフさんは「子どもたちのために子ども食堂を続けていかなければならない」と話しているそうだが、conneko—コネコ—の2つの活動拠点はどちらもボランティアが足りないという課題がある。ボランティアが不足した状態では、子ども食堂に訪れた子どもに適切な支援を行うことは難しいと考えられるが、私たちがボランティアとして参加することは、この点を解消することができるとともに、子ども食堂の継続にも大きな役割を果たしているのではないかと感じている。

また、活動に参加した際には、私たちが子どもに話しかけると笑顔になってくれることや、たくさんの子どもが私たちに話しかけてくれることが多い。さらに、スタッフさんからは「大学生が来てくれると、子どもも喜んでくれる」という言葉を頂いた。

このようなことから、子どもたちにとっても私たち学生ボランティアは重要な存在となっていると考えられる。学生ボランティアには、子どもと年齢が近いというメリットがあるため、私たちが子どもにとってのロールモデルになることで、子どもの見る世界を拓げてあげたいと考えている。

4. 今後の展望

昨年度は、「さらに多くのメンバーを集めることで、継続的なボランティア参加を可能にする」という課題があったが、本年度は昨年度に加えて22名のメンバーを確保することができたことにより、上記の課題を解消することができたと考えている。学生が1人で、学業やアルバイトなどと両立をしながら、継続的にボランティアとして子どもたちとかかわりを持つことは決して容易なことではないが、conneko—コネコ—のメンバーが交代で活動に参加し、そこで見た子どもたちの気になった発言や過ごし方を団体内で共有することで、子どもたちとの継続的なかかわりが可能になると考えられる。

しかし、団体内で情報共有を行う基盤が整っておらず、まだまだ個々での活動に留まってしまっているのが現状である。conneko—コネコ—の目指す「子どもひとりひとりに沿った支援」を可能にするために、来年度は団体内で情報共有を行う基盤を整えることに力を入れていきたい。

また、活動に参加したメンバーの中には「子ども食堂で自分が持ってきたゲームをして過ごしている子どもがいるが、せっかくだから他の子どもや大学生と遊んでほしい」と感じている学生もいる。そのような子どもにどのような対応を行えば、他の子どもやボランティアとかかわりを持ってもらえるかについて、引き続き団体内で話し合いを進めていきたい。